

「卓越性」（たくえつせい）：他よりはるかに優れていること。優越性。

キリストの卓越性は、主のご人格や働き、私たち信徒の身分、そして御国に関する正確な視点を持つ上で核となる部分です。

キリストの卓越性を理解するなら、このお方をより正確に捉えることができます。

また、主の愛の深さをよりよく知り、さらに主の愛を受け入れてそれに応答することができるようになります。

コロサイ人への手紙が記された理由のひとつは、当時コロサイで起こった異端に立ち向かうためだと神学者は考えます。

誤った教えに終止符を打つという望みのもと、キリストの卓越性に関する明確な教えが施されました。

### 1. あいさつ (コロサイ 1 : 1-2)

1:1 神のみこころによる、キリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、 1:2 コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

まず、パウロが手紙を宛てた聖徒たちとは誰でしょう。

それが誰なのかは、単語の意味を知ればわかってきます。

「聖徒たち」と訳された原語のギリシャ語は、「ハギオス」です。これは、「聖なる」という意味のギリシャ語の単語と同じです。

この単語はおもに、「違う」ことを意味します。

例えば、一世紀の神殿は「ハギオス」でした。それは、他の建物とは違ったからです。

「ハギオス」という単語は、神のために「分けてある」または「取っておかれた」物事を指します。ですから、「違う」のです。

私たちが主に人生をささげた瞬間から、私たちは違った人になりました。

そうです。私たちは、聖徒になりました。きよく、主のために取っておかれた存在です。

これを聞いて、いぶかしげな目で私を見ている人もいます。

きっと、私もここにいる他の人たちも、そんなにきよい聖人のようには見えないと思っているのかもしれない。

そのとおりでしょう。でも、確かにここにあります。

今ここにいる私たちは、何か違うところがあると思いませんか。

近所の人や、同僚、友だちは、教会に来たいと言うのでしょうか。

そう言われても、私たちがきよい聖人だとは納得できないと思いませんか。

では、どういう姿なら納得できますか。

天使の輪とか羽根でしょうか。

もちろん、私たちはひとりとして完ぺきではありません。

ここは天国ではないのですから、当たり前です。

それでも、教会が聖徒たちの集う場所であるというのは真実です。

ただし、教会は、病院のような場所です。聖徒たちが毎週、サタンやこの世、そして自分自身の肉から受けた傷を癒しに来る場所です。

もし完ぺきな教会を見つけたら、そこを離れてください。あなたがいることで、その完ぺきさが崩れるからです。

考えてみてください。私たちは完ぺきでしょうか。完ぺきとは程遠い者です。けれども、完成されたいとは思いませんか。

もしそうなら、励ましのみことばがあります。

ピリピ 1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

では、パウロのあいさつを改めて読みましょう。

コロサイ 1:2 コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

「恵み」と「平安」というふたつのことばは、新約聖書の随所でいっしょに登場します。そして、必ずこの順番で登場します。まず神の恵みを体験しなければ、神の平安を知ることはないからです。

## 2.コロサイ人の生活におけるキリストの卓越性 (3-14 節)

### **A.コロサイ人のキリスを信じる信仰についてパウロが感謝する。(1:3-8)**

1:3 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。1:4 それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです。1:5 それらは、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました。1:6 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。1:7 これはあなたがたが私たちと同じしもべである愛するエパfrasから学んだとおりのものです。彼は私たちに代わって仕えている忠実な、キリストの仕え人であって、1:8 私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました。

パウロは、人づてに聞いたことはあるけれども、まだ直接会ったことのないクリスチャンに宛ててこの手紙を書いています。

そして、聞いたことで、その人たちのことを神に感謝し、その人たちのためにいつも祈るようになりました。(3 節)

パウロはどんなことを聞いたのでしょうか。感謝したり祈ったりするようになる内容とは何でしょう。

パウロが彼らについて聞いたのは、次のような事柄です。

1. キリスト・イエスに対する信仰 (4 節)
2. すべての聖徒に対する愛 (4 節)
3. 彼らのために天にたくわえられてある望み (5 節)

信仰と愛と希望です。クリスチャン生活におけるこれら 3 つの徳は、新約聖書のあらゆる個所で強く奨励されています。

### **B. コロサイの信徒たちに知恵と実を結ぶことと敬虔さが与えられるようにパウロが祈る。(9-12 節)**

1:9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみことばに関する真の知識に満たされますように。1:10 また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうち実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。1:11 また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる

る力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、**1:12** また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。

パウロはコロサイの信徒たちのために絶えず祈っていますが、その順番が重要です。神と歩んでいなければ、神のために働くことはできません。神のみこころを知らなければ、神とともに歩むことはできません。

すべての神の子に対する普遍的なみこころは、聖書にはっきりと記されています。

特定の状況に関する具体的な神のみこころは、常に、みことばで明らかに示されている内容に則しているはずです。

私たちが、神の普遍的なみこころをよく知れば、日常生活の中で具体的な神のみこころを理解しやすくなります。

次に、パウロは、「神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされ」（**11 節**）ることを強調します。

これを読んで、どんなことをイメージしますか。

私たちは、力とか強いということばかりから、祈りに対する答えや礼拝の体験、伝道の結果などを思い浮かべる傾向があります。その一方で、私たち自身の生活における変化の力は見過ごしがちです。

パウロは、信徒たちが「神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて」、次のようになるようにと祈りました。

1. 忍耐（問題に耐える力）
2. 寛容（人に耐える力）
3. 喜び（問題や人に耐えつつ、喜ぶ力）

これらは人格を示す特性です。

**9-11 節**を一緒に見ると、その部分がひとまとまりであることがわかります。

**9 節**は、神のみこころを知るのに必要な知恵を得ることができると語ります。

**10 節**は、活力に満ちた実り多い歩みをすることができると語ります。

けれども、敬虔な性質がその根底になれば、何の役に立つでしょう。

サムエル記第二 **16 章**には、シムイという人物がのろいの言葉を吐きながらダビデ王に石を投げたと記されています。

すると、ダビデの家来のひとりが、シムイの首をはねましょうかと尋ねました。

けれども、ダビデはそれを許可しませんでした。ダビデは、寛容という性質を勝ち取ったのです。これはおそらく、強い大男ゴリアテに勝利したことと同等またはそれ以上に大きな勝利でした。

人には見えないたましいにおける勝利は、人の目に偉大に映る勝利と同等またはそれ以上に意味があるということです。

### **C. コロサイの信徒たちが感謝するようにとパウロが祈り、その理由も挙げる。（12-14 節）**

パウロの祈りはこれで終わりではありません。**12-14 節**で、次のように続けます。

**1:12** また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。**1:13** 神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。**1:14** この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

神は、私たちの罪を赦し、暗闇の圧政から救いだし、神の子と呼ばれる身分を与え、神の愛という永遠の相続を与えてくださいました。そのためにキリストが払われた犠牲を私たちは感謝しているでしょうか。

もし感謝しているなら、そのことを示しましょう。日常生活でそれを示しましょう。  
手始めに、パウロが信徒たちのために祈った祈りを自分の祈りにしてみてもいいでしょう。

「主よ、私は祈ります。(1:10) 私が、主になつた歩みをして、あらゆる点であなたに喜ばれ、あなたが私のために備えてくださったあらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。(1:11) また、あなたの栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、(1:12) また、私をあなたのものでくださり、聖徒の相続分にあずかる資格を私に与えてくださったあなたに、喜びをもって感謝をささげることができますように。(1:13) 神は、私を暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。(1:14) この御子のうちにあつて、私は、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。」

自分のために、そして他の人たちのために、こんなふうに祈ったことがないなら、今からでも遅くはありません。

### 3.キリストのご性質と働きにおける卓越性 (15-18 節)

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。1:16 なぜなら、万物は御子にあつて造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあつて成り立っています。1:18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。

イエスのうちに、神の愛、忍耐、親切、柔和、謙虚、あわれみ、知恵、力、正義、権威、威厳などが見られます。

あるとき、イエスを信じていないユダヤ人がイエスを取り囲み、「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」(ヨハネ 10 : 24) と言いました。

そこで、イエスは 30 節ではっきりとおっしゃいました。

ヨハネ 10:30 「わたしと父とは一つです。」

これ以上ははっきりと言うことはできないでしょう。

イエスは、すべての道が神に通じるというような福音は語られませんでした。

ヨハネ 14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

こうして、イエスはすべての宗教を排除されました。

イエスは、「わたしは道のひとつだ」とは言われませんでした。

コロサイ 1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

イエスが先に生まれたということは、イエスも造られたのであって、神ではないと主張する異端もあります。

しかし、これは単に権威を示す表現です。

「先に生まれた」というのは、栄誉ある立場にあることを意味します。

例えば、アメリカ大統領の妻はファーストレディと呼ばれます。

現在は、メラニア・トランプさんです。

メラニアさんはファーストレディですが、最初に生まれた女性という意味ではありません。

それは単に、大統領の奥さんだからアメリカでは第一の立場であるということです。

ですから、イエスが「造られたすべてのものより先に生まれた方」というのは、イエスが最初に造られたということではなく、すべての被造物よりもすぐれたお方だということです。パウロはこれについて **16-18** 節で、詳しく説明し、キリストが、被造物、教会、死、そしてすべての上に立つ第一のお方だと語ります。

ヨハネもイエスについて同じことを語ります。

**ヨハネ 1:3** すべてのもは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

パウロは続けます。

**コロサイ 1:16** …万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

私たちは「キリストのために」造られたのです。

今日私たちが受けている命は、誰のためにあるのでしょうか。私のためでしょうか。あなたのためでしょうか。

今日この一日がやってくると約束された人は誰もいません。けれども、誰もがそれを当然のことに思っています。その今日は、イエスのために造られたのです。

私たちは、今日というこの日を感謝しているのでしょうか。私たちは本当に感謝すべきです。

**黙示録 4:11** 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

私たちが存在するのも、造られたのも、神のみこころによるのです。

#### **4.キリストにある和解 (19-23 節)**

**1:19** なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、 **1:20** その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。 **1:21** あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行いの中にあっただのですが、 **1:22** 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。 **1:23** ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです。

人がエデンの園で神に背いて以来、人は神に反抗し、神と敵対してきました。

私たちのうちにはアダムの性質があり、霊の戦いがあります。アダムの性質は、私たちの人生における神の権威に抵抗します。

私たちには、神に反抗する性質があるのです。

神にも神の掟にも従いたくないものが私たちのうちに存在します。

だから、人間は神と敵対しています。

もしあなたが神と敵対しているなら、心に平安を得られるはずはありません。

パウロは、御霊に戦いを挑むのは肉だと語ります。

その戦いがある間は、

**イザヤ 48:22** 「悪者どもには平安がない」と【主】は仰せられる。

私たちの罪のせいで、この戦いが存在し、私たちに平安がないのです。

けれども、十字架で流されたイエスの血によって、イエスが平和をもたらしてくださいました。

平和への道を造ってくださったのです。  
私たちが罪を捨てて、神のもとに出られるようにしてくださいました。  
私たちが罪の赦しを神に求めるなら、イエス・キリストの血が私たちをきよめてくれます。

ヨハネ第一 1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

こうして、突然、平安がもたらされます。  
戦いは終わり、もう神に敵対はしなくなります。  
とは言え、神が望まれることを何でもできるようになるということではありません。  
ただ、神と敵対関係ではなくなる、神から逃げなくてよい、という意味です。  
それは、私たちが造られた目的にそって生きる第一歩です。

コロサイ 1:23 ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです。

どうやって信仰に踏みとどまるのでしょうか。  
しっかりとした土台の上に堅く立ち、はずれることがないようにすればよいのです。  
何からはずれないのかと言うと、「すでに聞いた福音の望み」からです。  
私たちの信仰が神のみことばを土台としていることが大事です。

ローマ 10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

なぜ信仰が足りなくなるのでしょうか。  
それは、神のみことばという土台にしっかり根差していないからです。

## **5.犠牲を払ってキリストに仕える (24-29 節)**

**1:24** ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。 **1:25** 私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。 **1:26** これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された奥義なのです。 **1:27** 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間であってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。 **1:28** 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。 **1:29** このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

24 節のパウロの言葉に注目しましょう。  
「私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。」

パウロは、どんなことに耐えてきたかについて語り、イエス・キリストの福音を告げ知らせるために払った犠牲をいくつか挙げました。

### **コリント第二 11 : 23-28**

**11:23** 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。 **11:24** ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、 **11:25** むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。 **11:26** 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都

市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、11:27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。11:28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。

これに比べれば、私たちの抱える問題はどれほどのものでしょう。  
正直なところ、私が抱えている問題をパウロが耐えたことに比べて考えると、恥ずかしくなります。  
そして、考えます。パウロはこんなたいへんな状況にどうやって耐えたのでしょうか。  
あきらめずに前進するよう彼を駆り立てたのは何だったのでしょうか。  
すべてがめちゃくちゃだと思えるようなときも、正気でいられたのはなぜでしょう。

パウロはその秘訣をこのように語ります。

コリント第二 5:14 というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。…

原語のギリシャ語の単語は「シュネコー」です。

- 1) まとめておく  
1a) ばらばらにならないように、ひとつにまとめておく
- 2) 束ねてまとめておく、圧縮する  
2a) 手で圧迫してひとつにする

パウロはこんなたいへんな状況にどうやって耐えたのでしょうか。  
すべてがめちゃくちゃだと思えるようなときも、正気でいられたのはなぜでしょう。

パウロが心神喪失してしまわないように支えていたのは、キリストの愛です。  
そのキリストの愛によって支えられたいと望む人には誰でも、同じ愛が今すぐ与えられます。

自分の人生はめちゃくちゃだと感じることはありませんか。  
もしそうなら、自分のために行動を起こしてください。あなたの人生を、主であり救い主であるイエス・キリストの愛に満ちた御手にゆだねてください。そして、その愛に支えられてください。